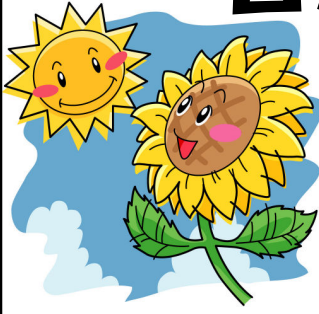


普及センター もいおか



第110号平成23年7月25日発行
盛岡農業改良普及センター
盛岡市内丸11-1 盛岡地区合同庁舎
TEL 019-629-6726 FAX 019-629-6739

8月にかけて全国的に高温の可能性

今年は昨年より1週間も早く、7月11日に梅雨明けしました。7月8日付けで気象庁が発表した1か月予報によれば、8月にかけて全国的に高温の可能性が高いと見通されています。以下を参考に、農作物、家畜の適切な管理に努めてください。

【水稲】

日中35℃以上、夜間25℃以上の高温が続く場合、気温より低いかんがい水のかけ流しにより地温の低下を図ることが、登熟の向上と品質の低下防止に効果的です。特に、夜間の温度が高いときには夜間かけ流しを行います。ただし、かんがい水が十分に確保できない場合には間断かんがいにより根の活力を維持し、水の入れ換えを行い、根に酸素を与えると同時に、たん水の水温を下げます。



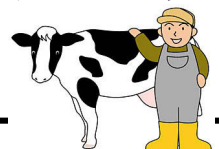
【野菜・花き】

これから高温条件での栽培となります。施設栽培では、遮光資材やつま面換気、換気扇の利用によりハウス内温度を下げる対策を実施しましょう。露地栽培では、病害虫防除を確実に行うとともに、集中豪雨に備えて排水対策を行い長期出荷に心がけましょう。りんどう・小ぎくでは、30℃以上の高温が続くと開花が遅れるため適宜かん水しましょう。通路へのかん水は、高温となる日中を避け、夕方遅めに行います。かん水量は、翌朝には水がぬける程度とし、残っている場合は、早朝に排水しムシ根が痛まないように気をつけましょう。



【畜産（牛）】

牛は、発汗による体熱放散が十分にできません。そのため遮光ネットや屋根への散水等により環境温度を低下させる対策と、牛舎内の開放や強制送風により体感温度を低下させる対策が必要です。また、ルーメン内での発酵熱の大きい粗飼料を中心として採食量が減少するので、良質粗飼料を準備するとともに、泌乳牛では、ルーメンアシドーシスを予防しつつエネルギーやミネラルを充足する対策が重要になります。



農作業中の熱中症に注意しましょう！！

熱中症の予防法

- 【暑さをしのぐ服装】 帽子の着用・通気性のよい衣類の着用
- 【水分・塩分の補給】 こまめな水分・塩分補給、こまめな休息
気温の高い時間は、ハウス等暑くなりやすい場所での作業をさける
- 【熱中症になりにくい作業環境】 ハウスや畜舎等の換気、扇風機利用による外気の送風
遮光や断熱材の施工等による温度上昇の抑制



熱中症になった時の処置

1. 涼しい場所に避難させる
2. 衣服を脱がせ、身体を冷やす（わきの下や首周り等を冷やす）
3. 水分・塩分を補給する
4. 自力で水を飲めない、意識がない場合は、直ちに救急隊を要請しましょう



注意していただきたいこと・お願いしたいこと

- ・ 暑さの感じ方は人によって異なります！高齢の方は特に注意が必要です。（熱中症患者の約半数は65歳以上の方です）
- ・ まわりが協力して、熱中症予防を呼びかけ合うことが大切です！極力2人以上の作業を心がけましょう。
- ・ 節電を意識するあまり、熱中症予防を忘れないようご注意ください。

盛岡地方若手女性農業者交流会開催しました！！

盛岡地方農業農村振興協議会では、7月7日（木）、盛岡地方若手女性農業者交流会を開催しました。農繁期のなか、北は八幡平市から南は紫波町までの若手女性農業者8名、役場の担当職員3名が参加しました。午前中は雫石町の食の匠である黒沢一子さんと中村はるえさんを講師に、認定料理の「よしゃれ鶏のネギ南蛮」と「南部かしわのおこわ」の作り方を教えていただきました。「コツは、揚げている最中はさわらないこと！」、「1升到合わせる蒸かし汁は3合」といった言葉を熱心に聞いていました。

午後は、役場の担当職員を含めて「なんだりかんだりトーク」、農業者だけの「思いをつなぐトーク」で交流を図りました。地震の時に感じたこと、家娘としての悩み、小さな野望などの話で盛り上がりました。普及センターでは、農村の担い手である若手女性農業者たちが、幅広い活動を展開していくためのお手伝いをしていきます。

